

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain 豊島 健治

金融トピックス (97 / 8)

オリックス生命、生保通信販売

今月初、国内ノンバンクの雄オリックスの生保子会社（オリックス生命保険）が新聞に大々的な広告を打った。国内生保ではおそらく初めての生命保険の通信販売広告である。報道によると広告の反応は上々で、3日間で電話照会が1万件あったという。保険料が既存の保険商品と比べ2～3割安いことやオリックスの信用度から見て、当然の反応と言えるだろう。

最近知ったのだが、保険料は純保険料と付加保険料で構成され、付加保険料は予定新契約費、予定維持費、予定集金費に分解される。この3種の付加保険料が保険料全体に占める割合は4割にもなるという。平たく言えば、保険会社の粗利は4割ということだ。オリックス生命は通信販売によりこの契約費や集金費を抑え、保険料を安くしたのだ。

今後こうした動きは加速するだろう。4割粗利を前提とした日本の生保の営業戦略（「生保のおばさん」に象徴される営業員の大量投入を基本とする）が、今後無店舗・通信販売とどう戦って行くのか注目される。

千葉銀、二歩前進

千葉銀が、地方銀行で初めて不良債権の全面的償却に踏切り、この中間決算で1千億を超える赤字を計上するという。黒字を維持しながら時間をかけて不良債権を償却してゆくというこれまでの方針を変更した。この背景には、このままでは激変する金融環境について行けないという危機感があったのだと思うが、この決断は評価されるものとなろう。

日本の銀行・証券・保険業界は、極端に言えば一寸先が見えない深い霧の中にある。この霧の先には青空が広がっているのだが、視界不良で独りでは渡れない。今焦眉の急は、花嫁になるにせよ花婿になるにせよ収益力を高め、企業として魅力的な体にあることだ。

霧が晴れ全体が見渡せるようになった時、どのような金融地図になっているかは、未だ全く判らない。

長期金利、一段と低下

今月も長期金利は一段と低下した。国債指

標銘柄の利回りは1.9%をつけ、1941年米国で一瞬つけた1.85%が目前となってきた。果たして、その金利を突破し世界金融史に「最も低い金利」として記録を残すのだろうか。

この日本の「超」低金利が一体何を意味するのか、関心はそこにある。景気が低迷しているから、資金需要がないから、金融機関の腰が引けているから、国民の安全指向が高いから、等々色々な原因が複合的に絡み合っているのだろうが、この「超」低金利はとても不気味だ。

「株安、円安、債券高」、最近のマーケットが送ってくるサインは、何かが壊れているような不安を感じさせるものがある。

預金保険法、改正案提出

大蔵省は、29日招集される臨時国会で預金保険法の改正案を提出するという。内容は、預金保険の援助対象を破綻金融機関だけではなく、経営が悪化している金融機関の合併も対象に含めるとするものである。

この改正の目的は明確で、債務超過には至っていないが経営が悪化している金融機関の不良債権を預金保険機構で買上げることにより、合併・吸収を進め易くすることにある。言ってみれば、経営不安が言われている金融機関を一気に処理するためのスキームである。金融機関は改正案に反発しているが、この改正の標的は明白である。

広島銀行、休日営業

広島銀行が10月より休日窓口営業に踏切るといふ。尤も1出張所だけのことだが、この実施は他の銀行の先駆けになるだろう。

銀行の土日・祝日休業は、顧客の方を向いていないとかねてより一部から批判されてきた。本当に顧客サービス・顧客満足を標榜するなら休日に店を閉めるなど有り得ないことだ。おそらく、1～2年後には商店街にある銀行も休日に店を開くようになると思う。それがビッグバンの当然の帰結である。

§お知らせ§

今月発表の「基準地価」の内、木更津・君津・袖ヶ浦・富津の4市基準地点の、今年を含め3年分のデータを騰落率を入れ一覧表に

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain 豊島 健治

しました。ご希望の方はFAXください。送
ります。

Weekly Fax Report

1997. 9. 27(第72号)

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

Nifty-ID BZH10642 E-mail f3583079@nv.aif.or.jp